海外だより

GAO 通信　第2号

45年5月8日発信　新　田　　尚

第1号を2月に送ってから早くも3ケ月が過ぎ去りました．もう少し早くと思いながら身辺の諸事に追われてしまいました．今年のジュネーヴの天候は少々変動がはげしく5月に入って2，3日前ブリーズが吹き荒れ，また気温が下りました．

第1号で GAO のスタッフのことを説明したと思いますが，その後，GATE の後始末を担当する人が決まりました．(ISMG が解消し，GAO の中に GATE 担当の Scientific officer が二人出来ました．過渡的に，ISMG の director の Kuettner が WMO にコンサルタントとしてしばらく滞在します．) それは，scientific coordinator の方が D. Rodenhuis (米メリーランド大) で data coordinator の方が I. Sitnikov (ソ連水理気象センター) です．夏にわれわれとジョインする予定だそうです．これで GAD も賑やかになります．GARP の全球実験を中心に，これからますます仕事も増え，活気をおびてくると思いますが，同時に GATE や AMTEX の科学的成果を，きちんとまとめていく方も大事なことだと考えています．FGGE の準備をすすめていて，こうした sub-programme の経験や教訓がどれだけ大切か感痛しています．

GARP の仕事も，今後いよいよ実施の段階の準備に入りますが，その先がけとして，data management の問題が重要になってきました．既存の観測資料，WWW で計画している新しい観測計画，そして FGGE のための特別観測計画のそれぞれについて，データの流れ，データ処理，データの保管と研究者への提供を完全にやり遂げねどなりません．いずれ折をみて，この問題について詳しい報告をしたいと思います．GAO では1月から準備に着手し，4月7日から1週間米ワンントン特別区で，「FGGE のための data management system を発展させる会議」を開きました．ワシントン，モスクワ，メルボルンの 3WMC をはじめ，各関係者20人余りで議論しました．1週間ではこなしきれない内容でしたが，とに角一応のレールは敷けたようです．このレールの上を，如何にうまく列車 FGGE 号を走らせるか，まだしばらく案をねる必要がありそうです．この会議の前の週に，4月2～4日に NOAA の NMC で JOC Working Group on Numerical Experimentation が開かれ，GARP 全体の教値実験をめぐる諸問題が議論されました．この両方の会議に出席して，GARP が今後直面するであろう多くの困難と，しかし一歩一歩前進していく力強さの両方を感じました．この短かい報告ではごく表面のことしか伝えられませんが，今や確実に全世界が，GARP という史上初の大規模な気象研究実験計画にたちむかっていることを，日本の気象界の皆様に感じて頂きたいのが，私の最大の希望です．そして日本がどれだけこの計画に貢献し，協力し，更にこの計画から学問的成果と技術的達成を手にするか，深く検討して頂きたいと願っています．

私の報告では，なるべく身近な，肌で感じたものを，そのままお伝えするつもりです．GARP の内容に立入った検討は，JOC の報告，教多くの GARP 関係の刊行物に基づいた，日本の GARP 国内委員会を中心にした活動からうまれているものと思います．

ジュネーヴでは目下 WMO の総会が開会中で，GARP の議論も進行中です．多くの国が期待を示し，特に熱帯地方の開発途上国の期待が大きいのが印象的です．GAO では，GARP になるべく多くの国が参加してくれることを願って努力しています．又，われわれは，MONEX，FGGE，GATE などの諸プログラムが形をなしていくのを忙しい仕事を通して感じています．ヨーロッパの春を初めて体験しながら，気象学の歴史を思い出したりしている昨今です．では又．